

三河の隣国 美濃国遠山莊 明知城

美濃国恵那郡遠山莊明智村
明知城 (通称：白鷹城)

徳川家康側近 明知遠山利景城主



明知城主郭 (左上) の東側斜面に設けられた横堀 (中央) と畝状整堀群 (右下)

戦国時代末期の明知城主、明知遠山利景(天文9年、1540年生誕)の正室は、尾張国三河足助城主鈴木重直と松平於久の娘である。於久は、三河松平家当主で弟の松平清康(徳川家康の祖父)の養女となり重直に嫁ぐが、重直が松平氏から離反したことで、於久は岡崎城に戻されている。

また、松平清康の跡目を継いだ松平広忠に、刈谷城主水野忠政の娘於大(伝通院)の輿入れが決まり、於大は岡崎城で竹千代(後の徳川家康、天文11年、1542年生誕)を産むが、於大の兄、水野信元が駿河の今川義元に反し、尾張の織田信秀・信長親子に従うと、今川氏と主従関係の広忠は於大を離縁した。これにより、3歳の竹千代(後の徳川家康)は生母於大と離別し、6歳で今川氏の人質になるまで岡崎城に居た於久が養母している。

【裏面に関係図を記載しています】

どうする？ 遠山利景の選択

① 遠山利景は幼年、父景行の命により出家して飯高山萬昌寺で僧となった。その後、元龜3年(1572年)、父景行が武田信玄率いる武田軍との上村合戦で大敗して自刃、明知遠山氏は存亡の危機を迎えた。

このため一門親族協議の上、若年の一行の後見として利景を立て家の再興を図った。利景は還俗し、一行と共に織田信長、徳川家康に属して各地を転戦した。

② 天正10年(1582年)6月2日、織田信長が明智光秀により京都本能寺で殺された。

甲府に在番していた明知城主遠山一行の後見人で叔父の遠山利景は、本国明知に帰る途中、駿河に立ち寄り、三河三奉行のひとり本多作左衛門と出会い神君(徳川家康)に属することを約束した。

③ 天正11年(1583年)、美濃兼山城主森長可は、山崎の戦いで明智光秀に勝利した羽柴秀吉方に加担し東美濃に侵攻、土岐高山城などを次々に手中に収めた。

遠山利景は人質として一行の娘阿子姫を美濃兼山城に送っていたが、森氏に属することを拒み明知城を脱出して三河の徳川家康のもとに走った。阿子姫は殺され矢作川の河原に晒された。

④ 慶長5年(1600年)、関ヶ原の合戦(9月15日)で東美濃の諸大名の多くが西軍に属する中、遠山利景は苗木城主遠山友政、土岐氏庶流小里氏の小里光親らと東軍(徳川家康)に属した。

利景は家康の会津征伐(会津大名 上杉景勝征伐)に加わっていたが、家康の命により、関ヶ原の合戦の前哨戦として帰郷し、西軍に属した岩村城主田丸直昌の属城となっていた明知城を9月2日に攻略した。その功により江戸幕府成立後の慶長8年(1603年)、旧領6,530石余を安堵され交代寄合となった。



明知城の大手門を移築したと伝わる八王子神社の唐門